北村山地区の県立高校の具体的な設置計画に係る
「地域説明会」（尾花沢市会場）記録要旨

１　日　時　平成22年1月21日（木）19：00～20：15
２　場　所　尾花沢市文化体育施設「サルナート」
３　出席者
　地域の方々　47名
　県教育庁　　高校教育課長、高校改革推進室長、高校教育課長補佐、
　　高校改革専門員、高校改革推進室職員
４　内　容　　室長より概要説明後、質疑応答
５　質疑応答概要
（質問・意見）
　新高校の開校までのスケジュールと、県立中学校へ最初に入学するのは、現在の小学校何年生が関係するのか教えて欲しい。また、楯岡高校に入学した生徒は、東根中高一貫校（仮称）への移行はどのようになるのか。
（県教育庁）
　これまで新しく高校をつくる場合、教育基本計画と敷地利活用計画に2年、校舎等の設計に2年、建設に2年、概ね6年間かかっており、できるだけ早く開校したいと考えている。
　楯岡高校に入学した生徒は、新高校開校の年に、これまでの鶴岡中央高校や新庄神室産業高校と同様に、新高校に転学することになると考えている。
（質問・意見）
　スクリーンを使った説明があったが、各高校の特色について、配布された資料では理解しづらい。なぜ、もう少し詳しい資料を配布しないのか。
　中高一貫教育校に関して、すでに中高一貫教育に取り組んできた金山高校、小国高校の取組みはどうであったのかということの説明が一切ない。そして、どのような経過により併設型の中高一貫教育校設置に至ったのかもわからない。
　さらに、中高一貫教育校を新たに設置した時に、併設型中学校の入学定員は何名なのか、併設型中学校の生徒がどれだけの魅力を感じて、高校部分に進学していくと考えているのか、部活動はどうなるのか、他の高校への進学が可能なのか明記されていない。
　教育基本計画策定委員会の構成メンバーとスケジュールの説明もない。地域説明会をするのであれば、もう少し丁寧な説明があってもよいのではないか。
（県教育庁）
　なるべく簡潔な資料を用意して、なるべくわかりやすく説明したもりであるが、もっと詳細な資料の方がよかったとするならばお詫びしたい。
　新しく整備する各高校の具体的な教育内容については、これから設置する教育基本計画策定員会で検討するのが、これまで新しい学校をつくる場合の手順だ。
　県教育委員会が立派な計画を立てたので、それを実施しなさいという考え方ではなく、実際にその学校に関わっていく先生方や地域の関係者が、教育基本計画策定委員会の中で考えていかないと、よい学校はできないだろうと考えている。
　金山地区、小国地区で取り組んでいる連携型の中高一貫教育校については、中・高間の交流と共に、「地域学習」という新しい学びをつくってくれた成果は大きいと考えている。

一昨年まで、小規模校に勤務していたが、金山高校、小国高校の地域と連携した取組みは、大いに参考になり地域と連携した学校づくりの参考となった。連携型中高一貫教育校の実践の他校への波及効果も大きいと考えている。

そうした連携型中高一貫教育校の成果やこれから設置する併設型中高一貫教育校のねらい等は、昨年、「山形県中高一貫教育校設置構想」についてのパブリックコメントの実施や、県内4地区での地域説明会を通して説明し、広く意見もいただいている。そこでいただいた意見も参考しながら、今年度、東根市に併設型中高一貫教育校を設置するという「山形県中高一貫教育校設置計画（内陸地区）」を策定している。

ただ、そうした情報がお手元に届いていなかったとすれば反省すべき点である。

併設型中学校に入学しても、併設型でない他の高校を受験して入学することは可能である。

教育基本計画策定委員会はなるべく早く設置したいと考えているが、2 校準備しなければならいないので、設置時期については、若干の差が出ると考えている。委員メンバーは、外部有識者、各学校の代表の方、中学校の代表の方などを策定委員として考えている。

（質問・意見）

併設型中学校の生徒が他の高校を受験できるとすれば、他の高校に生徒が流出してしまうのではないかという懸念がある。そうしたことは考えていないのか。

（県教育庁）

他県では他の高校を選択する生徒もいるようである。高校部分の魅力が大切であること、さらに、6 年間継続して学ぶことでこれまでの中学校と高校では伸ばすことができなかった部分を伸ばすことができる学校づくりをしないと成功しないと考えている。

東根中高一貫校（仮称）では、高校から入学してくる外進生と併設型中学校から進学する内進生が共に伸びていける教育環境をつくっていくことが大切であると考えている。

（質問・意見）

大石田高校と尾花沢高校が統合して北村山高校を設置した時は、両校の同窓会の皆さんは、さびしい思いがありながらも将来に夢を託して統合したという経過があり、現在の北村山高校の生徒のがんばりになっており、地域の方々も喜んでいると思う。

同窓会の方々の声が教育基本計画策定委員会に反映される仕組みを考えていただくと、地域に根ざしたものも生まれるのではないか。

（県教育庁）

酒田新高校（仮称）でも教育基本計画策定委員会を設置しており、さきほど質問があった、在校生の移行に関することも検討がなされた。具体的には、今年酒田工業高校に入学する生徒は、3年次に転学し、酒田新高校（仮称）を卒業することになる。

酒田新高校（仮称）の教育基本計画策定委員会には、直接的に同窓会の方が参加して、毎回協議に加わるということはなかったが、同窓会の方々とは接触を図りながら、これまでのよい取組みをどうしたら新しい学校に活かしていけるのかということを意見をいただいてきた。

北村山地区においても同様に同窓会の方々からいろんな場面でご意見もいただきながら開校に向けて準備を進めて行きたい。

（質問・意見）

東根中高一貫校（仮称）の開校に関して、高校と中学校が同じ敷地にあるので、東根工業高校現有地では、敷地面積が狭いのではないかという声があるが、どのように考えてい

るのか。
（県教育庁）
　中学校と高校の両方の教育環境を整備しなければならないのは確かであるが、他県では、体育館が高校用と中学校用の 2 つある学校もある。グラウンドも部活動のことを考えると、普通の高校のグラウンドでは狭いということもある。
　これから設置する教育基本計画策定委員会で策定する教育内容を踏まえ、必要な敷地面積を検討し、敷地利活用計画を策定することとなる。
（質問・意見）
　「山形県中高一貫教育校設置構想」についてのパブリックコメントをホームページで見ることはできるのか。
　現在、高校生の雇用情勢は厳しい状況にあるが、村山産業高校（仮称）に東根工業高校の家庭科をそのまま統合するのではなく、商業科を設置することになった背景を説明して欲しい。
（県教育庁）
　「山形県中高一貫教育校設置構想」についてのパブリックコメントは、現在も県ホームページで公開している。
　家庭科から商業科に変わるという発想ではなく、農業科、工業科、商業科を設置することにより、農業の 6 次産業化への対応など、1 つの学校で新しい学びができる学校をつくるということである。
　今まであった東根工業高校の家庭科が全くなくなってしまうというのではなく、北村山高校の総合学科に、衣食住を学べる系列を新しく設置し、その系列を選択することにより家庭科の学習ができるようにしたい。
　東根工業高校生活クリエイト科の「ＤＮＡ」が北村山高校の中に入って、新しい伝統の中で生きていくという発想で考えていただきたい。
（質問・意見）
　新たに設置する中高一貫教育校では、6 年間の系統的な学びが実現するということは興味深いが、併設型の中学校から高校部分に進学する内進生と、高校段階から入学してくる外進生の両方がいることになるが、学習の進度の違いへの対応はどのように図られるのか。
（県教育庁）
　他県の事例では、3 つのパターンがある。
　1 つは、併設型中学校で高校の学習内容の「先取り学習」をしており、高校部分で、内進生と外進生を違うクラス編成をして対応している学校である。2 つめは、併設型中学校では「先取り学習」をせず、体験学習や実験に時間を多くとり、高校部分は内進生と外進生を同じクラス編成をしている学校である。3 つめは、高校部分の 1 年生のみ内進生と外進生を違うクラス編成にして、1 年生の時に学習の進度調整をして、2 年生から内進生と外進生をいっしょのクラス編成にしている学校である。
　東根中高一貫校（仮称）については、これから設置する教育基本計画策定委員会の中で、検討することになる。
（質問・意見）
　併設型中学校の入学定員が 2～3 学級となっているが、他県ではどのような状況か。現実的には、北村山地区からの入学生が多くなることが予想されるが、既存の中学校への影響は、どのようなことが想定されているのか。

（県教育庁）
　併設型中学校の入学定員で全国で多いのは、1 学年 80 名で 2 学級という学校である。本県では、「さんさんプラン」を中学校へも導入しているので、内進生と外進生の両方のことを考えた検討が必要であると考えている。
　中高一貫教育校に関して他県の状況を調べてみると、志願倍率は、設置している市町村の人口規模と関係している。地元からある程度の人数が入学してくることが予想されるが、ある特定の中学校から多人数が併設型中学校に入学してきて、既存の中学校の元気がなくなるということがないようにしたいと考えている。
（質問・意見）
　併設型中学校への入学は、選抜試験をせず、面接、作文、適性検査、抽選等を適切に組み合わせるという説明があったが、入学者決定の透明性を確保する手立てを考えて欲しい。
（県教育庁）
　入学者の決定方法については、これから他県の例も参考しながら、様々な視点から検討していく。
（質問・意見）
　今後開校に至るまでもこのような地域説明会を実施して、開校に向けての流れを実感させて欲しい。
　この計画の実施に関して、県ではどのくらいの予算を見込んでいるのか。
（県教育庁）
　既存校舎の利活用や、敷地面積として十分なのかなど、これからつめなければならない部分があるので、現時点では詳しい数字を申し上げる段階ではない。
　県教育庁の予算だけで、同じ年に校舎を 2 つも 3 つも建設することはできず、１つの学校の校舎建設も何年間かかけて建設している状況であるが、皆さんの要望をなるべく早く実現できるよう考えていきたい。

以上